



©Naruki Oshima, Courtesy of Yumiko Chiba Associates

## 大島 成己 Naruki Oshima

### “Tableau／Bibémus: with Cezanne”

会期：2018年1月19日（金） - 2月17日（土）

会場：Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 4-32-6 パークグレース新宿#206

営業時間：12:00-19:00 定休日：日、月、祝日

オープニングレセプション：1月19日（金）19:30 - 20:30

トークイベント：1月19日（金）18:30 - 19:30

※大島 成己 × 鈴木 理策（写真家）

2018年1月19日（金）より、Yumiko Chiba Associates viewing room shinjukuにて、大島成己個展“Tableau／Bibémus: with Cezanne”を開催いたします。

2011年より大島が精力的に制作しているシリーズ“haptic green”は、被写体への焦点距離を変化させて撮影した数百枚のカットをコンピューター上で格子状に繋ぎ合わせ、一枚の写真として再構成することで奇妙な風景を作り上げました。「木の部分」を視る近い距離と、「全体の木」を視る遠い距離、遠近二つの距離感を混在させ、その両者の振幅のなかで「木」が曖昧に現れることにより、私たちの空間認識は揺さぶられ、未知の視覚体験がもたらされます。このように、視ることを通して、固定化された意味が反復される日常世界から私たちを解放し、外の世界との新しい関係を構築することは、大島作品に通底する重要なコンセプトの一つです。

そういった作品を制作していく過程の中で、傍には常にポール・セザンヌの存在があったと大島は言います。多視点を用いて、事物を新鮮な眼差しで捉え直しキャンバスに描いたセザンヌの絵画は、大島に大きな示唆を与えてきました。本展では、“haptic green”シリーズの新作として、後年セザンヌが制作現場とした南仏のエクサプロバンスに赴き撮影をした作品を展示致します。セザンヌが描いた石切場の作品と同じ構図で撮影をしたオマージュとなる作品をはじめ、独自にセザンヌを解釈し、その思考を「写真」を通じて継承できないかと検証したプロジェクトの成果を、是非ともご高覧ください。

尚、展覧会のオープニングに合わせ、同様に写真を用いてサント＝ヴィクトワール山やセザンヌのアトリエを主題とした作品を制作している写真家の鈴木理策氏をゲストにお招きし、作家とのトークイベントを予定しております。合わせてご案内致します。



## ■作家ステートメント

セザンヌと／感覚の写真へ

写真の一般的な在り方は、一つのパースペクティブにおいて対象世界を縮減し、記号化する。私の仕事はそのようなあり方に抗い、固定化したパースペクティブを壊乱させるところから始まる。例えば、建物ガラスファサードの反射を被写体にした写真イメージをレイヤーに切り分けて空間を錯綜させたり、クローズアップされた数百枚の写真を一枚に統合して、遠近の距離感を混在したりなどが挙げられる。最近作は後者の手法によっているが、それは対象の色々なところに焦点を合わせて視線を<集中>化したり、逆にピントをぼかして視線を<拡散>化したりと、集中と拡散が混在する無数のショットによって不安定な風景を構成している。そしてその不安定さにおいて被写体の意味文脈は後退し、色彩性、触覚性が感覚的に動き始めるニュートラルな世界を現そうとしている。

こうした世界の有り様を写真において探ってきたわけだが、実は常にセザンヌの作品が横にあった。彼の作品における、一元的なパースペクティブではない多視点で捉えられることで起こる空間の<歪み>のようなものを写真でやり直すことができないかとずっと考えてきた。今回の個展では、こうした問題意識を表明するためにセザンヌを敢えて取り上げ、彼が後年よく描いていた、南仏エクサンプロバンスのピバミュにある石切場 (Carrières de Bibémus) とその周辺を撮影し、制作している。ここはかつて採石場だったが、セザンヌがモチーフとした頃には既に使われていなかったようだ。街の中心から車で数十分程度離れたところにあり、ここから有名なサント・ヴィクトワール山を臨むことができる。彼のここでの作品は、直線的にカットされた岩と周辺の鬱蒼と生い茂る緑の木々とのコントラストが印象的で、それはコラージュの切り貼りのような違和感をもたらし、空間の<歪み>をより一層強めている。視線の集中と拡散、そして多視点に関連付けられた風景のコラージュによって石切場のシリーズは、彼の作品の中で最も私の興味を惹いている。

セザンヌのこうした捉え方は私の偏った解釈かもしれないが、誤解、誤読の大らかな展開の可能性を信じながら、今回の個展ではその捉え方からもたらされる空間の<歪み>を写真においてどのように実現できるかが中心的になる。つまり、それは、対象を一元化し記号化してしまう一般的な写真のあり方を、セザンヌのように物を捉える実感のもとで再組織化しようとするものである。そこでは自身の仕事が、意味解釈される写真から「感覚の写真」へと向かうことを探ることとなっていく。

大島 成己

## ■オープニングレセプション

日時：2018年1月19日(金) 19:30-20:30

会場：Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku

## ■トークイベント

日時：2018年1月19日(金) 18:30-19:30

会場：Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku

登壇者：大島 成己 × 鈴木 理策(写真家)

※事前申込制、参加費：無料

## 鈴木 理策 (写真家)

1963年和歌山県新宮市生まれ。見ることへの問いと写真のメディア性への関心を基底に、熊野、雪、桜の各シリーズの他、南仏サント=ヴィクトワール山やセザンヌのアトリエを主題とした作品、湖沼の水面・水中・反射像に注目した「水鏡」、ハーフミラー越しの肖像写真「Mirror Portrait」等を発表。主な個展に「熊野 雪 桜」(東京都写真美術館、2007年)、「意識の流れ」(丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、東京オペラシティアートギャラリー、2015年)、「意識の流れ・水鏡」(田辺市立美術館・熊野古道なかへち美術館、2016年)、「Mirror Portrait」(タカイシイギャラリー、2016年)等。近著に『SAKURA』(Edition Nord)、『Water Mirror』(FAPA・Case Publishing)、『Étude』(SUPER LABO)がある。

## 【お申し込み方法】

件名「トークイベント参加」、本文に、参加人数、お名前、電話番号をご明記のうえ、[event@ycassociates.co.jp](mailto:event@ycassociates.co.jp) までメールでお申し込みください。

\*定員(20名)になり次第、受付を終了いたします。

\*ギャラリーからの返信メールが届かない場合は、営業時間内にお問合せください。



## ■作家プロフィール

## 大島 成己 (おおしま なるき)

1963 大阪府に生まれる  
2000 アーティスト・イン・レジデンス「Art-Ex」にてドイツ・デュッセルドルフ市招待アーティスト  
2001-02 文化庁在外研修員派遣芸術家プログラム  
2001-03 ドイツ・デュッセルドルフ芸術アカデミー、トーマス・ルフ ( Thomas Ruff ) 教室にて研究  
2010 京都市立芸術大学大学院美術研究科博士後期課程修了、博士(美術)取得  
現在 東京都在住

## [主な個展]

2015 「Figures」 Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku (東京)  
2014 「大島成己出版記念展」 Sunday (東京)  
「大島成己個展」 新苑画廊 (台北/台湾)  
2013 「haptic green」 NextLevel gallerie (パリ/フランス)  
「haptic green/緑の触覚」 Gallery Nomart (大阪)  
2011 「haptic green/緑の触覚」 Gallery Nomart (大阪)  
2009 「Reflections」 Gallery Nomart (大阪)  
2008 「Reflections」 Gallery White Room Tokyo (東京)  
2006 「Reflections」 Galerie Heinz Martin Weigand (カールスルーエ/ドイツ)  
「Reflections-像としての色彩」 Nomart Editions Project space (大阪)  
2004 「Reflections」 Nomart Editions Project space (大阪)  
「Reflections」 ギャラリーTEZZ (東京)  
「夜の色」 (ビデオ・インスタレーション) 信濃橋画廊 (大阪)  
2002 「Reflections」 Nomart Editions Project space (大阪)  
「Contemporary Art From Japan to Finland 2002」 フィンランド美術家協会 Gallery G (ヘルシンキ/フィンランド)  
2001 「大島成己個展」 信濃橋画廊 (大阪)  
2000 「大島成己個展」 関西ドイツ文化センター (大阪)  
ドイツにおける日本年「Naruki Oshima, Photograph」 クンストラウム・デュッセルドルフ (デュッセルドルフ/ドイツ)  
1999 「大島成己個展」 信濃橋画廊 (大阪)  
「大島成己個展」 複眼ギャラリー (大阪)  
1998 「大島成己個展」 番画廊 (大阪)  
1996 「写真的色彩について」 シティギャラリーI.M. (大阪)  
1994 「大島成己個展」 ギャラリービュウ (大阪)  
「大島成己個展」 シティギャラリー (兵庫)  
1993 「イトーキアートプログラム vol.1,8-大島成己」 イトーキクリスタルホール (大阪)  
1992 「大島成己個展」 シティギャラリー (兵庫)  
1991 「大島成己個展」 インタフォームアトリエ (大阪)  
1990 「大島成己個展」 シティギャラリー (神戸)  
1987 「大島成己個展」 オンギャラリー (大阪)  
1986 「大島成己個展」 信濃橋画廊 (大阪)

## [主なグループ展]

2015 「Festival Phot' Aix 2015」 Aix en Provence (プロヴァンス/フランス)  
2013 「新収蔵展：信濃橋画廊コレクション」 兵庫県美術館 (兵庫)  
「Print Art Triennale in Kyoto」 京都市美術館 (京都)  
2012 「PEKE 展：大島成己×梅原悟」 Gallery Nomart (大阪)  
「写真分離派『写真+』」 中京大学 Cスクエア (愛知)  
「Refining The Multiple Japanese Printmaking」 テネシー大学、他 (アメリカ合衆国)  
2011 「上海国際版画展-viewing city」 上海虹代現代美術館 (上海/中華人民共和国)  
2010 「台湾国際版画展」 国立台湾師範大学 (台北/台湾)  
「あいちアートの森：堀川プロジェクト」 (文化庁) 東陽倉庫テナントビル (愛知)  
2008 「パリフォト2008・ジャパン・ステートメント部門」 カルーセル・デュ・ルーヴル (パリ/フランス)  
2007 「Appearance：写真表現と現代空間の深層」 (大林組 TNprobe 企画) ヒルサイドテラス&フォーラム (東京)  
2006 「現代日本の写真、風景の記憶/記憶の風景」 国立国際美術館 (大阪)  
2005 文化庁「DOMANI 明日 2005」 損保ジャパン東郷青児美術館 (東京)  
2004 「版の記憶/現在/未来」 東京芸術大学美術館陳列館 (東京)



- 2003 「第9回ヴェネチアビエンナーレ国際建築展-写真部門」イタリア館、及びアルセナール（ヴェネチア/イタリア）  
「Mobility, Weil Arets+Naruki Oshima」Nomart Editions Project space（大阪）  
「Art Court Frontier 2003」アートコートギャラリー（大阪）  
「TAMA VIVANT 2003—とらえられたかたち」多摩美術大学（東京）、弥右衛門画廊（京都）  
「City Scape」ギャラリーハイツ・マーティン・ヴァイガンド（カールスルーエ/ドイツ）  
「第一回ロッテルダム国際建築ビエンナーレ」（ロッテルダム/オランダ）  
2002 「トーマス・ルフ教室から...」ギャラリー・ハウス・シュナイダー（カールスルーエ/ドイツ）  
2000 「今村源-三脇康生-大島成己」Nomart Editions Project space（大阪）  
「大島成己、田中栄子」名古屋芸術大学アートデザインセンター（愛知）  
1999 「時代の表情-反表情、日本の版画 1945-1999」町田市立国際版画美術館（東京）  
1997 芸術祭典—京—「思い出のあした」京都市美術館（京都）  
1994 「光と影-うつろいの詩学」広島市現代美術館（広島）  
「現代の版画'94」渋谷区立松涛美術館（東京）  
1993 TOKYO まちだ国際版画展 買上賞町田市立国際版画美術館（東京）  
1992 アートナウ'92 「12人の実践/90年代美術の新地平」兵庫県立近代美術館（兵庫）  
1991 現代美術'91 「素材はいろいろ」徳島県立近代美術館（徳島）  
1990 シガアニュアル'90「写真による現代版画」滋賀県立近代美術館（滋賀）  
1989 特別展「版から/版へ-京都 1989」京都市美術館（京都）  
つかしんアニュアル「浮遊体-イメージ空感」西武美術館つかしんホール（兵庫）

#### 【共同制作】

- 2003 「第一回ロッテルダム国際建築ビエンナーレ展」（ロッテルダム/オランダ）  
オランダ人建築家ヴィール・アレツツ(Wiel Arets)とビデオ・インスタレーションを共同制作

#### 【パブリック・コレクション】

京都嵯峨芸術大学（京都）、徳島県立近代美術館（徳島）、大阪府立現代美術センター（大阪）、町田市立国際版画美術館（東京）同志社大学（京都）、京都市美術館（京都）、名古屋芸術大学（愛知）、ルドライン・ヴェストファーレン学校省（デュッセルドルフ/ドイツ）、国立国際美術館（大阪）、株式会社大林組大阪本社（大阪）、国立台湾師範大学（台北/台湾）、兵庫県美術館（兵庫）